

早いもので2月に入りました。昔の人はよく言ったものです。一月は「いぬる*（行く）」二月は「逃げる」三月は「去る」と…。この言葉どおり、三学期の毎日があっという間に過ぎていくような気がします。

残りの日々で各学年のまとめをしっかりと行い、次の学年に向けて自信や期待を持たせて、卒業・進級させていきたいと思ひます。



※この話を2年生にすると、「『いぬる』ってなあに？」と聞かれました。知らなくて当然ですね。
「いぬる」は「過ぎ去る・去る・行く」の古語です。広島県の方言でもあります。

校則の見直しについて

1月の参観日、学級懇談では、校則の見直しについて生徒指導担当から説明をしました。一般的に「これまでの校則は時代や社会情勢にそぐわず不合理な点が多い」と指摘されており、本校も今年一年かけて、PTA役員会や学校運営協議会委員でご意見をいただきながら3年生以上の児童を中心にまとめていき、この度、来年度以降（令和6年4月1日施行）の校則を決定しました。変更については、下の表にあるような視点で見直しました。

集団の中で生活する上で、何らかの決まり・ルールは必要です。また、それと同様に見直しも必要です。当日の説明で「児童の主体的な関与は、身近な問題を自分たちで解決しようとする教育的な意義がある」とお伝えしたように、本校でも校則の見直しを通して、児童に自分たちの生活を見直し、さらに良くしていこうとする意欲や実践力を高めさせるねらいで進めました。皆で新しい校則を大切にしながらも、必要な場合は見直しを検討し、児童の生活にとって良いものにしていきたいと思ひます。

見直しの視点

- 健康上の問題を生じさせる
- 性の多様性を尊重していない
- 合理的な理由が説明できない

心と体の安心安全・性の多様性



この視点で見直す

変更点

- ・頭髪「男子は…女子は…」を廃止
- ・「防寒着・防寒具の使用」を加える
- ・上履き「白を基調とした」に変更
- ・社会通念上の決まりや法律・交通規則との整合を図る（万引き禁止やヘルメット着用）等

代表委員会の様子



※新しい校則は、1月17日の参観日に受付で配付いたしました。また、当日ご都合が悪かった保護者の方には、学級で児童を通して配付しております。まだ、お持ちでない場合は、担任までお知らせください。

先日、「校長先生、ちょっといいですか。」と、6年生の代表2名が校長室を訪ねて来ました。手には「企画書」と書いてある紙とタブレットを持っていました。

話を聞いてみると、6年生が道德の時間に、1月に起きた能登半島地震について話し合う中で「自分たちができることは何だろう」「募金をよびかけたらどうだろうか」という意見が出たのだそうです。それを具体的な活動にするため企画書を書いて、私のところに許可を得るために来たようです。タブレットは、私との話し合いを記録するため、話し合っている端からすぐその内容を打っていました。その姿は頼もしく、人を思いやる心やそれを行動に移す実行力等、6年生皆の成長を感じ、大変嬉しく思いました。

その後、6年生は、保護者・地域の方への文書の作成や、公民館への募金箱の設置のお願いをあっという間に済ませ、昨日、児童を通じて「募金のお願い」の文書を配付させていただいた次第です。

募金活動は、2月5日（月）～2月9日（金）の期間を計画しています。被害に遭われた方のために、募金をよびかけた6年生の気持ちにご賛同いただける方はご協力をよろしくお願いします。



今月の「地域の達人」紹介 版画 桑田 将徳さん（上高木）

2月は、上高木の桑田将徳さんの版画2点をお借りして掲示しています。

3学期は、児童もちょうど図工の時間に版画の制作に取り組んでおり、自分で彫りや刷りを経験しているから、作品の素晴らしさが一層実感できるようです。作品と一緒に、児童の感想も掲示しています。保護者・地域の皆様も、ご来校の際にはぜひご覧ください。



「山郷の農夫」

この版画は、人や木のかげなど、とても細かいところまで再現して彫っていてすごいと思いました。葉っぱの一枚一枚や家の屋根など本物ぐらい細かったです。

4年 岡本 佳澄



「雄橋（上帝釈峽）」

この作品は、白黒だけの色づかいかでも、空や木々、水の感じがうまく表現できるよう工夫されていると思いました。自分も版画を作るときにはやってみたいです。 6年 佐伯 大竜